

# 軸となる取組・活動

※小中一貫教育構想図の実践に向けて、軸となる取組・活動について、つきたい力を明確にした上で、中学校ブロックまたは各学校で取り組む内容を、学年または一定の学年区分ごとに記載してください。(適宜、学年または一定の学年区分ごとに、実線・枠等の記入や点線の消去をしてください。)

<b>義務教育卒業時につきたい力</b> ◎自信と誇りを持ち、自分の進路を切り拓く力。 ◎高い規範意識と正義感・志。 ◎進んであいさつができ、思いやりを持ち、言葉を大切にする力。 ◎基礎学力を身につけた上で、自ら学び応用しようとする力。								
<b>学年または学年区分ごとにめざす姿</b> ①目標をしっかり持ち、粘り強くやり遂げようとする子 ②友だちを大切にできる子 ③自分の考えが言える子 ④心も体もたくましい子						① 思いやりと優しさ、素直な心を持ち、挨拶と言葉を大切にできる生徒。 ② 校則やみんなで決めた約束を守ることができる、規範意識の高い生徒。 ③ 正義感を持って行動し、仲間を大切にでき、笑顔が輝く生徒。 ④ 学習・行事・部活動など様々な活動に自ら積極的に取り組める生徒。 ⑤ 進路展望を持ち、将来必要な学力や生きる力を身につけた生徒。		
・地域学習などを通して、自分たちが地域の様々な方に支えられていることに気付く。 ・粘り強くやり遂げようとする。 ・気付いたことや見つけたことを自分なりの表現し、発表する。 ・友達と協力することの大切さや楽しさに気付く。		・地域や生活の中で、自分が役立つことを考え実践する。 ・自分が立てた計画を粘り強くやり遂げようとする。 ・気付いたことや見つけたことを友達と協力しながら分かりやすくまとめ、発表する。		・課題解決のための調査や情報収集など、適切な計画を立てて粘り強く取り組み、やり遂げようとする。 ・集めた情報や調べた事柄に自分なりに工夫を凝らし、相手意識をもってよりよい発信をする。 ・体験を通して、働くことの意義や苦労、大切さが分かる。				
小1 (1年)	小2 (2年)	小3 (3年)	小4 (4年)	小5 (5年)	小6 (6年)	中1 (7年)	中2 (8年)	中3 (9年)
<b>取組・活動</b> <b>&lt;梅津小学校の取組&gt;</b> ・みんなのこにこだいさくせん(家庭と生活) ・もうすぐ2年生(自分の成長)						<b>&lt;梅津中学校の取組&gt;</b> 学習の意義・目的・授業の受け方についての全校集会 部活動・文化祭・体育大会・全校道徳・生徒総会 ファイナンスパーク学習 防煙教室 小学校訪問		
<b>&lt;梅津北小学校の取組&gt;</b> ・みんなのこにこだいさくせん(家庭と生活) ・もうすぐ2年生(自分の成長)		・スーパーや農家で働く人 ・昔の暮らし(お年寄りとの交流)		・スチューデントシティ学習 ・非行防止教室 ・桂川環境学習・堆肥作り(総合)		・中学生や地域の人々と楽しみつながろう(総合) ・非行防止教室 ・薬物乱用防止教室 ・中学校体験授業 ・中学生体験授業 ・非行防止教室 ・薬物乱用防止教室 ・地域探求		
梅北「梅北算数検定・漢字検定」 梅小「算数チャレンジ・漢字チャレンジ」・・・二校で同じ問題を使用する。年間2回						中学校でも継続できないか検討		
<b>&lt;中学校ブロックとしての取組&gt; 梅津中学校ブロックにおけるキャリア教育カリキュラムの実践</b> 思いやり・優しさを持ち、言葉やあいさつを大切に「いいことばの日」の取組推進								
・異学年、保護者、地域の人々と交流することを通して、児童の学ぶ意欲を高めると共に、授業において言語活動の充実を図る。 ・児童にとって身近にある地域の文化に触れたり地域の人々と関わりをもつことにより、地域社会に愛着を感じ、地域の伝統や文化を大切にしようとする態度を育成する。		・地域の方やお年寄りとの関わりを通して、誰に対しても丁寧な気持ちと誠意をもって接しようとする態度を養うとともに、自分の成長を振り返り、将来への展望をもたせる。 ・自らが調べたり、考えたりして分かったことをまとめ、分かりやすく発表できる力を養う。		・体験活動を通して、社会は人々がそれぞれの役割を分担し、お互いに支え合い、補い合う中で成り立っていることを理解し、自らの生き方について考えさせる。 ・観光都市京都について自らの課題に応じて調べ、よりよい街づくりについて分かりやすくまとめ、発表できる力を育てる。		言葉・約束・仲間を大切に「梅津の志」の徹底 社会・経済の仕組みを知り、社会の一員として、また将来家庭を支え、子どもを育てる者として、生きるために必要な力や身に付けなくてはいけないものは何かを学ばせる。 学級・学年・学校など様々な単位での集団活動を通し、将来所属する集団の一員として、ルールや約束を守り、正義感を持って行動できる力や社会の変改に対応できる力を身に付けさせる。 職業体験を通して、自分の適性や将来について考えさせる。また生き方について、仲間と共に考察を深めさせ、自分の進路を切り拓く力と、その裏付けとなる知識や生きる力を身に付けさせる。		

項目	小1 (1年)	小2 (2年)	小3 (3年)	小4 (4年)	小5 (5年)	小6 (6年)	中1 (7年)	中2 (8年)	中3 (9年)
話し方 聞き方 授業規律	<b>【発表名人5か条】</b> ①しせいよく ②みんなに聞こえる声で ③はっきりと ④えがおで ⑤あい手を見て	<b>【発表名人7か条】</b> ①しせいよく ②みんなに聞こえる声で ③はっきりと ④えがおで ⑤あい手を見て ⑥立つ位置を考えて ⑦分かりやすい速さで	<b>【発表名人10か条】</b> ①姿勢よく ②みんなに聞こえる声で ③はっきりと ④笑顔で ⑤相手を見て ⑥立つ位置を考えて ⑦分かりやすい速さで ⑧ポイントを指し示しながら ⑨相手の反応を確かめて ⑩調子・速さを変えて	<b>【話し方名人】</b> ①姿勢を正して ②みんなを見て ③大きな声で ④ポイントをおさえて ⑤語尾をはっきりと					
	<b>【聞き名人5か条】</b> ①体をむけて ②かおをみて ③うなずきながら ④大事なことをおとさずに ⑤さいごまで	<b>【聞き名人7か条】</b> ①体をむけて ②かおをみて ③うなずきながら ④大事なことをおとさずに ⑤さいごまで ⑥自分と比べながら ⑦話の中心に気をつけて	<b>【聞き名人10か条】</b> ①体を向けて ②顔を見て ③うなずきながら ④大事なことを落とさずに ⑤最後まで ⑥自分と比べながら ⑦話の中心に気をつけて ⑧意図をとらえたり ⑨質問したり ⑩感想を述べたり	<b>【聞き方名人】</b> ①相手を見て ②相づちを打ちながら ③メモをとりながら ④最後まで聞いて ⑤自分と比べて  ※高学年に合わせて10か条にすることを検討					
	<b>【授業規律10か条】</b> ①授業が始まるまでにトイレをすませ、学習の準備をしておこう ②忘れ物をないようにしよう ③時間を守ろう ④気持ちのよいあいさつをしよう ⑤自分の席に、姿勢よく座ろう ⑥授業の「めあて」を確認し、最後にはふり返ろう ⑦先生の話や友だちの話を最後まで聞こう ⑧手をあげて、ていねいな言葉づかいで発表しよう ⑨ノート・プリントは後で見直しができるように、ていねいに書こう ⑩宿題は、毎日必ず出そう						<b>【授業規律10か条】</b> ①授業が始まるまでにトイレを済ませ、学習の準備をしておこう ②忘れ物をないようにしよう ③ベル着を守ろう ④気持ちの良い挨拶をしよう ⑤自分の席に、姿勢よく座ろう ⑥授業の目標を確認し、最後にはふりかえろう ⑦先生の話や友だちの話を、最後まで聞こう ⑧手をあげて、丁寧な言葉遣いで発表しよう ⑨ノート・プリントはあとで見直しができるように、工夫して書こう ⑩宿題は、期限を守って提出しよう		
家庭学習	家庭学習のめやす＝学年×(10～15分) ①漢字ドリル・漢字の学習・漢字ノート ②算数プリント・計算ドリル ③音読  <b>【週末】</b> ・読解問題 ・日記				家庭学習のめやす＝学年×10分 ①漢字ドリル・漢字の学習・漢字ノート ②算数プリント・計算ドリル ③音読 ④自主学习  <b>【週末】</b> ・読解問題 ・日記		宿題黒板を見て各教科の課題・提出物の確認。 一定の量の決まった内容の家庭学習が出されるとは限らないので、自学自習ができることがポイント。わからないことは、その日のうちに質問。	内容をより深め、覚えたての知識を正確な物にするには自学自習が必要。わからないことは、その日のうちに質問。自学自習用のノートを準備し、各教科の勉強法に沿って始める。	新しい内容だけでなく3年間の復習も必要。それを次のステージで通用するために、自学自習が必要。自学自習用のノートを活用する。
適切な言葉 あいさつ 言葉遣い	○「ふわふわことば」を使う。 ○相手を見て大きな声であいさつをする。 ○丁寧語がつかれるようにする。	○相手を見てあいさつをする。 ○相手に気持ちが伝わるような正しい言葉遣いをする。 ○相手を思いやる気持ちを持って言葉がけができる。	○その場の状況や相手の状態を考えて挨拶をする。 ○相手に気持ちが正しく伝わるような言葉遣いをする。 ○優しく思いやりがあり、相手を勇気づける言葉をかけられる。	○その場の状況や相手の状態を考えて挨拶をする。 ○相手が気持ちいいと感じることが出来るあいさつが出来る。 ○相手に気持ちが正しく伝わるような言葉遣いをする。 ○優しく思いやりがあり、相手を勇気づける言葉をかけられる。	○社会で通用できる正しい言葉遣いができる。敬語・尊敬語がたたく使える				
	○言葉遣いのモデルとして、教職員が適切な言葉遣いをする。								
読書習慣	○朝読書の時間の活用 ○読書を習慣付けるため、読み聞かせ、学級通信等で本の紹介、読書ノートの活用								